

議 事 録

会議の名称	茨木市人権尊重のまちづくり審議会 第3回いのち・愛・ゆめセンターあり方検討部会
開催日時	平成28年2月25日（木） 午後1時～午後4時
開催場所	茨木市立豊川いのち・愛・ゆめセンター2階会議室
部会長	熊本 理抄
出席者	熊本 理抄 岩本 賢三 長田 佳久 柴原 浩嗣 三木 昭 <p style="text-align: right;">(5人)</p>
欠席者	なし
主な議題	(1) いのち・愛・ゆめセンターのあり方について (2) その他
配布資料	添付のとおり

(順不同、敬称略)

発言者	内 容
事務局	<p>1 開会</p> <p>ただ今から、いのち・愛・ゆめセンターあり方検討部会を開催する。 本日の部会は委員5人の出席があり、欠席はない。審議会規則を準用して、ここからの進行は部会長にお願いする。</p>
部会長	<p>本日傍聴者はあるか。</p>
事務局	<p>5人ある。ただいまから入場していただく。</p>
部会長	<p>【傍聴者入場】</p> <p>それでは次第に沿って進めていきたい。</p>
会長	<p>2 議題 [1] いのち・愛・ゆめセンターのあり方について</p> <p>議題1について事務局より説明をお願いする。</p>
事務局	<p>まずは前回と同様に現地視察を行いたい。20分程度のフィールドワークとなる。よろしく願います。いのち・愛・ゆめセンター（以下「愛センター」という。）に戻ってから「道祖本を語る」というDVDの視聴を予定している。傍聴の方もよろしければご一緒いただきたい。</p> <p>【フィールドワーク】（以下の施設について事務局職員が説明） ・愛センター館内 ・愛センター分館</p>
館長	<p>当館の事業として、5年ほど前から地域住民への聞き取りを行っており、その映像を編集したDVDをご覧いただく。</p> <p>【DVD「道祖本を語る」視聴】</p>
部会長	<p>それでは、フィールドワーク、DVDについて質問などはあるか。 続いて、愛センターの現状について田嶋館長から、また相談の状況について相談員の方から願います。</p>
田嶋館長	<p>【会議資料に基づいてセンターの現状を説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度は大阪大学との共同で講座を毎月実施していた。 ・平成18年度～26年度にかけて講座数は減少している。職員数の減少によるもの。

発言者	内 容
	<ul style="list-style-type: none"> ・識字については子どものころに学校に通えなかったという人は減少、若者では、学校に十分通えていない方、高校卒業のための支援としての参加がある。 ・識字は、講師数が受講生より多くなっているが、これは学校の先生が講師になってローテーションを組んでいるため。 ・外国人の日本語教室については、企業等で働いていない人を対象としていたが、今年度からは就職している人も対象としている。 ・就職している人でも、仕事では英語で通じるために問題ないが、日常生活で水道代や電気代の請求書等が読めないので、参加したいという人もいる。 ・日本語教室の案内をHPに掲載しており、突然英語で問い合わせがあることもある。 ・大阪大学が近くて恵まれている部分もあるし、突然の依頼もある。 ・他県から引っ越してきた日系ブラジル人もいる。茨木の地域交流事業で入っていたメンバーにポルトガル語ができる人を探してもらって対応している。 ・隣保館としては人権の部分でやってきたことと、貧困者のサポートであった事業だが、いまはニーズが多様化する中で、いろんな部分で要求されている実態がある。 ・メインは相談事業になるが外国人の相談もある。今は茨木の他の保育所でも対応しているが、道祖本保育所が先んじてハラール食に取り組んだことがあり、大阪大学の留学生などから問い合わせがたくさんあった。定員があるためすぐに入れないという状況があり、そうした相談があった。件数は落ち着いているが、今もなお、外国人の相談は多い。 ・総合相談事業としてワンストップをめざし、寄り添いやアウトリーチを念頭に置いて取り組んできたし、地域の生活実態の複合的な課題がある。毎月1日の広報が出ると、すぐに電話がかかってきて対応している。近隣の公的機関に相談しにくいと遠くの当館に相談することもあるし、何でも相談として垣根が低いので、隣近所のこんなこと聞いていいのかとか、債務についての相談、DV相談など多岐にわたっている。弁護士等につなぐこともある。 ・相談件数は平成20年度までは少なかったが、平成21年度に相談員が2人になると、その後徐々に増えている。その意味でも相談事業は当館のメインとなっている。 ・相談機能強化事業及び地域交流事業は、他の2愛センターに続いて来年度委託しようと考えている。その内の支援方策会議については、現時点でもCSWのケアケース会議と、愛センターの支援方策会議を合同させて豊川小学校区見守りネットワーク会議として開催しており、愛センター、CSW、地域包括支援センター、障害者支援員の4者が事務局となっている。また、民生委員など関係の方にも来てもらっている。他の関係者会議と重ならないよう、地域包括支援センターの地域ケア会議とは同じ日に時間差で開催するなどし、また回数も少なくして実動を重視している。

発言者	内 容
	<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの居場所の問題や、ゴミ屋敷のことも議題となり、4者の事務局やメンバーで、本人の了解を得て片付けに行ったり、今やれることや状況について各部署で情報交換している。 ・ 茨木市人権豊川地域協議会が集めた食料を持って、民生委員が見守りを兼ねて回っている。 ・ 今後耐震工事等の大規模改修が必要な部分がある。あり方検討部会の議論を受けて、年次計画を立てる必要がある。 ・ 就労に関する相談が多い。大学の進学率が低く、市の商工労政課と就労支援に関して会議を持つこともあるし、貧困支援で動いている福祉政策課と、年に1回は会議ができるよう、事前調整がまだまだ必要であると感じる。ほか2館の愛センターは2階に共用室があるが、当館にはないため、相談室の前のスペースしかない。共用室やサロンの集えるスペースの改修なども、将来を見据えて検討していかなければならないと考えている。 <p>【5分休憩】</p>
山口相談員	<p>【相談事例資料に基づいて報告】 (編集注：ほぼ全体にわたり個人情報を含むため、詳細な記述は省略します。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の相談ケースについて対象者、経過・関わり方、今後の方向性等について説明。
部会長	<p>質問もお聞きしたいが当初の予定時刻を回っているため、話を進めたい。資料は個人情報を含むため回収をお願いします。</p> <p>続いて地元関係団体として茨木市人権豊川地域協議会、部落解放同盟豊川支部をそれぞれ代表してお願いします。</p>
茨木市人権豊川地域協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ DVDで話されていた以前の話をしたい。 ・ この地区は三島郡豊川村にあった。戸数200あまりの集落だった。かつては独自の集会所があり、その前は昭和25年くらいの時にはお寺がありそこで日曜学級というものがあった。集会所の場所がないので日曜学級で習字、算数、国語、女性は生け花の教室が、お寺の別棟でやっていた。そこで青年団の会議などをやっており、最初に村で集まる場所だった。 ・ 小学校は村立から、茨木市箕面市学校組合立豊川小学校という位置づけになっていたものが、茨木市に合併されていた。 ・ この地区には地元の産業がない。南にゴルフ場があるため、小学校4、5年生からはキャディとして働き、家計の手伝いをしていた。そのため、学校の教育はそれほど受けず、4年生になったら働けという状況だった。特に女性はキャディが主な就労先だったが、雨天になると中止するような不安定な仕事であっ

発言者	内 容
解放同盟道祖本支部書記長	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年末にはしめ縄を作って売ることも生活の足しにしていた。ウラジロを取りに行行って売るなどして生活していた。ゴルフ場ができたときには人夫として働いてきた。土地持ちが少なく小作が多かった。融和事業で農機具を買ったことがあるようだが、その道具を持ってよそのところへ稲刈りに行ったりしていた。しかし空いた期間に売って酒に替えてしまったようで、現物は見たことがない。 ・男性でキャディからゴルフを覚えてプロになった人も輩出している。合わせて140名のプロがいる。地元の女性と結婚した著名なゴルファーもいる。プロになって生活が安定するとよそに移ってしまい、村に住んでいるプロはいない。DVDで言われていたように歩道橋の運動などに取り組んできた。以前から活動してきたメンバーでは私が一番年寄りになってしまった。 ・地域の企業に寄付をいただいて作成したパンフレットを資料として配布している。非常に広い地域であり、他の愛センターと比べると人口も多い。だいたい700～800世帯、1,800人くらいである。 ・茨木市の西端になり、公共交通機関もあまりなく、陸の孤島的な位置にある。モノレールができて便利は良くなったが。 ・改良住宅は240世帯10棟あるが、後はマンションやハイツなど。生活困窮になっている人が多い。ここで43年住んできたが、支部も地域も愛センターも一緒になって地区の課題に取り組んできた。団体だけではなく、いろいろ一緒になってやってきた中で、人がつながっていないとできないということがあった。 ・この地区の課題として、平成12年（2000年）の同和問題解決の実態調査と平成19年（2007年）の隣保館の調査をみると、障害者手帳を持っている人が多い。必要な人に制度を届けられているのは人のネットワークの結果ではないかと思う。身体、知的、精神障害など、それぞれ福祉課題がある。高齢者も増加しており、後期高齢者が増加している。また60歳以上が32.9%である。高齢者世帯が増加しており、要介護・要支援認定者も10年で21%増加している。福祉的な課題が多い。 ・一方で20歳代から34歳も増加している。これは、離婚して母子家庭になって親元に帰ってくる若い世代がいることと、公営住宅が10棟あるため生活困窮層が流入していると考えられる。外国籍の人も増加している。いろんな課題を持っている人が住んでいる地域である。 ・地区住民というが、地域で出会ったら声掛けして挨拶してコミュニケーションを取る。そういうところで得た情報にもとづいて話すと、教育の課題が差し迫っている。親が仕事をできていない、夜の仕事を帰宅が遅い、子どもは自分で食べている、宿題をできていないといったように、勉強する環境が整いにくい状況がある。朝ごはんも食べていない子どもがいる。晩御飯が遅い子どももいる。消防団の夜勤に親が家にいない子どもが遊びに来たりもする。また、発達

発言者	内 容
	<p>障害の無理解により学校に行きづらくなり不登校になっている子どももいる。支部が取り組む行事等でフォローしているがそういう子どもがいるのが現状である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターはもともと解放会館という名称で、分館は青少年会館であった。私は小学校1年生から社会教育の支援を受けてきた世代であるが、今は施設はあっても見守る人がいないのでそういう場がなくなっている。居場所がないことで人とのコミュニケーション、他者との接し方や生きる力が養われづらい子どもが多いと感じる。大学進学率は私のころは奨学金もあって多かったが、今は一学年十数人の中の1人か2人しかいない。 ・生活困窮が多く、生活保護を1割程度が受けている。ひとり親家庭になって地域に戻ってくる家庭も経済的にしんどく、親も経済的にしんどい。しんどくなって戻ってくる人が多く、安定したら外に出ていく。中間層になると外に出る。家賃を払うより安定した生活をした人マイホームを外に持つ人が多い。高齢者は無年金者が多い。そうすると生活がしんどい。高齢者は多いが、1階でカラオケを今日もやっているが、そういう集まる機会が少ない。介護する側がしんどいことも多々ある。高齢者が多いと社会福祉法人の施設もあるが、家族が自分で見ようとする人も多い。 ・非識字については、市役所からの文書が読めない、意味が分からないので地域協議会に相談に来る人がいる。識字学級に日本語教室をつくったのは、隣の郡山団地にパンダ教室があり、府営住宅でしんどい外国籍の人が多く。その意味で愛センターが中間支援的な役割を担っている。 ・仕事の話としては、陸の孤島でかつては愛センターの南にスーパーがあったが、今は全くない。路上駐車が多いというのは、車がないと買い物に行けない、交通手段が乏しい。仕事をするのに何が必要かを考えにくい、教えられていない、という面もあり、自立支援が必要な人が多い。社会マナーがわからない人もあり、敬語を使えない、社会常識が希薄という人もいる。そこで社会に出ていくルート、手段が乏しい。それは成人も子どもも同様である。大人の背中を見て子どもが育つので、地区の状況が当たり前だと思ってしまうと、難しい。 ・東日本大震災にあたって、東北のイスラムの方がこちらに避難してきた。地区にある大阪茨木モスクを目指して大人数の方が入ってきた。その際、愛センターが軸になって住民や支部と一緒に、コリア学園やJICAと協力して避難先や寝る場所の確保を愛センターの館長や相談員ががんばってくれて、市の危機管理にもお世話になって、何とか受け入れができたことは大きな成果であった。 ・愛センターの公的な支援が地域には非常に大事だと思っている。「イスラム国」の過激派テロの問題もあり、「イスラム国」との違いの取組みをやるなど、地域の状況をうまく人権啓発などに生かせるような取組みをさせてもらっている。

発言者	内 容
部会長	これだけは聞いておきたいということはあるだろうか。
委員	相談状況と館の主催事業の利用状況をみると、相談が増えている、特に福祉が増えている。相談員が増えたことで相談が増えたということがあったが、増えたことで相談に対応できるようになったということかと思う。逆に主催事業では職員が減ると事業が減るところで、きれいな建物があるのに職員がいなくて使えていないのが課題と感じる。その点について、職員の関わりや対応の課題を聞きたい。
田嶋館長	<p>人がいないと事業はできないので、企画立案から人が必要であり、人がいないというのはネックである。箕面市の視察では18人という職員数が出ていたが、その中で隣保館のノウハウを生かしてという部分では、やはり人が重要なのかと思う。また人を使うためのシステムづくりがある。箕面市萱野では平成8年から施設の改修を進めており、青少年会館と解放会館を合体させることを先にしており、それを一般開放していくことを先行させてきた。また住民の活動をフォローしていくという市長の考え方も大きかったため、そういった背景と、茨木市の行政の良いところをうまくやって行く、また人の問題ということが課題になると思う。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">2 議題 [2] その他</div>
部会長	愛センターの皆様、地域の皆様、傍聴者の皆様にはお礼を申しあげる。その他について事務局よりお願いします。
事務局	今回は3月25日午後1時30分から、総持寺いのち・愛・ゆめセンターで開催したい。市役所本庁から行かれる方は午後1時集合。当日はあり方検討部会に引き続き、午後5時から、市役所本庁で審議会の開催も予定されている。ご参加をよろしく願います。案内については文書で後日お送りする。
部会長	<p>これを持って本日の議題を終了する。皆様ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">3 閉会</div> </p>